

事後評価書

箇所名	みなこしちく 舟越地区		事業名	地域水産物供給基盤整備事業	課名	水産基盤整備課																																																																																									
事業概要	工期	平成6年度～平成21年度	全体事業費 (下段:H16再評価)	5,667 百万円(負担率:国80～55:県20～35:他0～10)																																																																																											
	(下段:H16再評価)	平成6年度～平成22年度		5,006 百万円(負担率:国80～55:県20～35:他0～10)																																																																																											
事業目的及び内容		<p>◇事業目的</p> <p>当漁港は、鳥羽市の4有人離島の中で一番大きい答志島にあり、答志島の人口は約2,400人、漁家世帯が多く、水産業は答志島の主要な産業となっています。また、水産加工業や、観光産業とも密接に関連しており、答志島では漁業が島の生活を支える産業となっています。</p> <p>答志島には3つの漁港があるものの、荒天時には安心して停泊できる岸壁が不足していたことや、離島という地理条件により漁具干場等の漁港施設用地が不足していたことから、主要産業である漁業活動に支障を来していました。</p> <p>そこで、これらを改善するため、答志島の北側に舟越漁港を整備し、防波堤等により港内静穏度を確保し、さらに岸壁・用地整備等により漁業作業環境を整えることにより、漁業活動の効率化及び安全性の向上を図るとともに、島内の避難港を整備しました。</p> <p>◇事業内容</p> <p>1号防波堤(L=142.5m)、2号防波堤(L=194.9m)、1号突堤(L=60m)、2号突堤(L=48.5m)、 -3.0m泊地浚渫(A=5,597㎡)、-3.0m岸壁(L=426.9m)、浮棧橋(N=1.0基)、道路(1)(L=634.9m)、 道路(2)(L=410m)、関連道(L=1,222m)</p>																																																																																													
1. 事業の効果		<p>◇費用対効果分析</p> <p>費用対効果分析は、『水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン、平成27年4月改訂、水産庁漁港漁場整備部』の手法に準拠し実施しました。</p>																																																																																													
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H16前回再評価 (基準年:H16)</th> <th>今回評価 (基準年:H27)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="8">便益</td> <td>総便益額(B)</td> <td>7,644 百万円</td> <td>17,895 百万円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>年間便益額</td> <td></td> <td></td> <td>【発表資料での効果】</td> </tr> <tr> <td>水産物の生産向上</td> <td>300,248 千円/年</td> <td>423,548 千円/年</td> <td>避難港整備による避難時間・経費の削減のり共同加工場委託による摘採量の増加</td> </tr> <tr> <td>漁業就業環境の向上</td> <td>106,919 千円/年</td> <td>108,933 千円/年</td> <td>係留作業状況の改善(労働環境改善)</td> </tr> <tr> <td>生活環境の向上</td> <td>0 千円/年</td> <td>236 千円/年</td> <td>(加工場用地の土地利用の拡大)</td> </tr> <tr> <td>非常時・緊急時の対処</td> <td>0 千円/年</td> <td>73,827 千円/年</td> <td>災害時の避難経路及び避難場所の確保</td> </tr> <tr> <td>自然保全・文化の伝承</td> <td>0 千円/年</td> <td>33,833 千円/年</td> <td>住民の交流促進とコミュニティーの醸成</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0 千円/年</td> <td>31,320 千円/年</td> <td>(施設利用者の利便性向上)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>407,167 千円/年</td> <td>671,696 千円/年</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">費用</td> <td>総費用(C)</td> <td>5,481 百万円</td> <td>11,168 百万円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>事業費</td> <td>5,006 百万円</td> <td>5,667 百万円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持管理費</td> <td>1,000 千円/年</td> <td>1,000 千円/年</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">費用対効果分析(B/C)</td> <td>1.40</td> <td>1.60</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">算定基礎となった主要因の変化</td> <td colspan="3">【主要因の変化の理由】</td> </tr> <tr> <td></td> <td>利用漁船数</td> <td>0隻</td> <td>78隻</td> <td>利用漁船の増加</td> </tr> <tr> <td></td> <td>鳥羽本土への避難回数</td> <td>7回</td> <td>0回</td> <td>静穏効果の発現</td> </tr> <tr> <td></td> <td>のり販売枚数の増加</td> <td>17,931千枚</td> <td>25,265千枚</td> <td>のり摘採量の増加</td> </tr> <tr> <td></td> <td>避難経路及び避難場所の確保</td> <td>-</td> <td>14人</td> <td>避難可能人数の増加</td> </tr> <tr> <td></td> <td>舟越漁港・関連道の余暇利用</td> <td>-</td> <td>284人</td> <td>余暇・生活に利用している住民数</td> </tr> </tbody> </table>						H16前回再評価 (基準年:H16)	今回評価 (基準年:H27)	備考	便益	総便益額(B)	7,644 百万円	17,895 百万円		年間便益額			【発表資料での効果】	水産物の生産向上	300,248 千円/年	423,548 千円/年	避難港整備による避難時間・経費の削減のり共同加工場委託による摘採量の増加	漁業就業環境の向上	106,919 千円/年	108,933 千円/年	係留作業状況の改善(労働環境改善)	生活環境の向上	0 千円/年	236 千円/年	(加工場用地の土地利用の拡大)	非常時・緊急時の対処	0 千円/年	73,827 千円/年	災害時の避難経路及び避難場所の確保	自然保全・文化の伝承	0 千円/年	33,833 千円/年	住民の交流促進とコミュニティーの醸成	その他	0 千円/年	31,320 千円/年	(施設利用者の利便性向上)	合計	407,167 千円/年	671,696 千円/年		費用	総費用(C)	5,481 百万円	11,168 百万円		事業費	5,006 百万円	5,667 百万円		維持管理費	1,000 千円/年	1,000 千円/年		費用対効果分析(B/C)		1.40	1.60		算定基礎となった主要因の変化		【主要因の変化の理由】				利用漁船数	0隻	78隻	利用漁船の増加		鳥羽本土への避難回数	7回	0回	静穏効果の発現		のり販売枚数の増加	17,931千枚	25,265千枚	のり摘採量の増加		避難経路及び避難場所の確保	-	14人	避難可能人数の増加		舟越漁港・関連道の余暇利用	-	284人	余暇・生活に利用している住民数
	H16前回再評価 (基準年:H16)	今回評価 (基準年:H27)	備考																																																																																												
便益	総便益額(B)	7,644 百万円	17,895 百万円																																																																																												
	年間便益額			【発表資料での効果】																																																																																											
	水産物の生産向上	300,248 千円/年	423,548 千円/年	避難港整備による避難時間・経費の削減のり共同加工場委託による摘採量の増加																																																																																											
	漁業就業環境の向上	106,919 千円/年	108,933 千円/年	係留作業状況の改善(労働環境改善)																																																																																											
	生活環境の向上	0 千円/年	236 千円/年	(加工場用地の土地利用の拡大)																																																																																											
	非常時・緊急時の対処	0 千円/年	73,827 千円/年	災害時の避難経路及び避難場所の確保																																																																																											
	自然保全・文化の伝承	0 千円/年	33,833 千円/年	住民の交流促進とコミュニティーの醸成																																																																																											
	その他	0 千円/年	31,320 千円/年	(施設利用者の利便性向上)																																																																																											
合計	407,167 千円/年	671,696 千円/年																																																																																													
費用	総費用(C)	5,481 百万円	11,168 百万円																																																																																												
	事業費	5,006 百万円	5,667 百万円																																																																																												
	維持管理費	1,000 千円/年	1,000 千円/年																																																																																												
費用対効果分析(B/C)		1.40	1.60																																																																																												
算定基礎となった主要因の変化		【主要因の変化の理由】																																																																																													
	利用漁船数	0隻	78隻	利用漁船の増加																																																																																											
	鳥羽本土への避難回数	7回	0回	静穏効果の発現																																																																																											
	のり販売枚数の増加	17,931千枚	25,265千枚	のり摘採量の増加																																																																																											
	避難経路及び避難場所の確保	-	14人	避難可能人数の増加																																																																																											
	舟越漁港・関連道の余暇利用	-	284人	余暇・生活に利用している住民数																																																																																											
◇その他の効果(金額換算できない効果)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・外郭施設、係留施設整備に伴い、漁船係留や漁船上下架作業時の安全性が向上しました。</li> <li>・浮棧橋整備、共同加工場稼働等により、海苔漁業者の労働力軽減による持続性が向上しました。</li> </ul>																																																																																													
2. 事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化		<ul style="list-style-type: none"> <li>・舟越漁港に防波堤を整備したことにより、前面の消波ブロック・被覆石を基盤として藻場が創出されました。ここでは、現在、ナマコやタイ・スズキ・メバル等の根付きの魚が漁獲されており、新たな生物生産の場として機能しています。</li> <li>・藻場は、水質浄化等の自然環境の保護・修復する機能を持っていることから、水質浄化効果が発現されています。</li> </ul>																																																																																													

### 3. 事業を巡る社会経済情勢等の変化

#### ◇漁業生産の状況

H6年に整備を開始してから、以下のように、答志島の水産業の情勢は変化しました。

- ① 魚価の低迷、燃油の高騰
- ② 漁業者の高齢化と後継者不足

しかし、この状況は答志に限らず全国でも同様の傾向であり、水産業の衰退が問題となっています。

#### ◇答志島3漁港の状況

全国、三重県、答志島3漁港の漁船隻数の推移、陸揚金額の変化、漁業従事者の変化について、H5年を1とした比率でみると、全国、三重県全体に比べ、漁船隻数、漁業従事者の減少割合は、答志島3漁港のほうが低い傾向にあります。特に漁業従事者数は、平成5年に対して8割を維持しており、全国・三重県の5～6割を上回ります。また、答志島3漁港の漁業従事者(正・準組合員数)は586人(H25)と、人口の約3割、就業者数の約4割を占めています。製造業、観光業等も、漁業があつてこそその業種です。漁業者自らが、養殖、藻場再生等を積極的に実施し、今後の発展のための取り組みを行っています。

答志島では、漁業が盛んで、島の基幹産業であり、水産業、すなわち島の生活の発展につながる、漁業整備等の水産基盤の整備・環境保全が必要です。

### 4. 県民の意見

当漁港の利用者及び背後住民を対象に平成27年7月に実施したアンケートでは、302世帯(配布455世帯)から回答があり、主な意見は次のとおりです。

#### ◇舟越漁港の整備効果についての意見

舟越漁港の防波堤・岸壁・水産加工場の整備効果について、答志支所では64%、和具(答志)では56%が以前より良くなったと回答

#### ○良くなった点

- ・台風時、鳥羽に避難しなくてすむようになった。安心して係船ができる。
- ・のりの摘採の時、やや強い風の時でも出漁できるようになった。
- ・浮桟橋が使いやすい。
- ・網が延べられ、修理がしやすい。ヒジキが干しやすい。

#### ○悪くなった点

- ・ポンツーン1基ではたりない。
- ・5t未満の船は港が大きくてロープがとれない。中堤防が欲しい。
- ・アサリ掘りができる浜がなくなった。

#### ◇舟越漁港、関連道の利用目的についての意見

舟越漁港の利用目的については、漁業関係者(答志支所・和具浦支所)の45%が日常的に漁業作業に利用しており、関連道の利用目的については、56%が漁業に利用していると回答

#### ○漁業関係者の利用目的

- ・日常的な漁業作業(係留、のり・サワラ・荷物の陸揚げ、網の修理等)
- ・荒天時の避難
- ・のりの陸揚げ、加工
- ・津波警報が出たとき、港内でしのいで、自分は山に逃げる。

#### ○漁業以外の利用目的

- ・散歩、犬の散歩、ウォーキング、ジョギング、ドライブ、釣り
- ・ホテルを見に行く。
- ・自分の山や畑に行くとき
- ・釣り用の自家用船を台風時に係留

### 5. 再評価の経緯

平成16年度の再評価において、事業の妥当性が認められたことから、事業継続が了承されています。

### 6. 今後の課題等

舟越漁港は、答志島全体における水産物の安定供給を実施するために、答志漁港、和具(答志)漁港、桃取漁港それぞれの漁港における課題として、避難場所、多重係留、生産力向上等を解消するために整備を進めてきました。現状、島内避難場所としての機能や答志漁港の多重係留は改善されてきましたが、和具(答志)漁港や桃取漁港の舟越漁港利用による生産力向上等につながる拠点整備は十分解消されておらず、課題となっています。

今後、課題への対応として、以下の事項について、検討を進めていきたいと考えております。

- ① 答志支所、和具(答志)支所、桃取支所の漁業活動拠点(防災拠点)としての整備。
- ② 舟越漁港と桃取漁港との間の関連道路の整備。